

北九州市の「一日里親」が社会的養護の中で果たす役割

地域コミュニティ社会システム研究科

2010M30003 牛草 文誉

要旨

“北九州市の「一日里親」が社会的養護の中で果たす役割”をテーマにまとめるにあたり、この「一日里親」の活動が、児童養護施設に入所している子供たちをどのように支えているのか、また、「一日里親」は子供たちを支えるために何を学び行動をしなければならないのか、取り組みの意識、課題を知るためにアンケート・聞き取り調査をした。

第二章に於いてアンケートの結果の概要と考察・課題で述べたように、養護施設に監護されている子供たちにとって、3泊4日の短期の「一日里親」がどのような役割を果たしているのか、様々な角度から学ぶことができた。

実際のアンケート・聞き取り調査によって判ったことは、「一日里親」は自分の仕事の都合によって3泊4日位、特に2泊3日間をボランティアとして子育てを楽しみたいとの気持ちで関わっていることが明らかとなった。好意的で、積極的な面もあり、子どもたちも楽しんでいるように思われる。

それゆえ、「一日里親」は、なかなか進まない里親制度の支えとして、子どもたちに家庭の体験をさせることにより、社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立への援助をする役割を担っていると言える。

また、施設に入所していた児童の聞き取りの中で、「施設には何でもある。これからも存続してほしい。入るまでの自分はトラウマとストレスで苦しかった」という言葉を聞いて、施設は子供の安心、安全を保障しているのだということもわかった。

本論を通して、子供たちの背景、虐待の実状、子供たちの育ちに対する国の施策、児童相談所の対応、直接養護に関わる施設職員、各々の里親の状況を調べてきて、上記のごとく、「一日里親」の果たす役割が見えてきたと言える。

しかし、「一日里親」・里親が充実していく課題として3つの事が考えられる。

- 1) 「一日里親」は単に楽しむだけではなく、可愛いからだけではなく、子供の社会的・家庭的背景について学び、養育力を高めていかねばならない。そうすることにより「一日里親」から養育里親、専門里親に移行していくことが期待できる。
- 2) 自治体が研修、啓発、広報等積極的に取り組むことによって、厚労省が目指している、現在10%から15%へと施設養護から家庭的養護への移行が

進んでいくと思われる。実際に、第一章に述べたように自治体の啓蒙努力によって里親委託率に大きな差があることが報告されている。最高が新潟県で33.6%、最低が高知県3.2%、全国平均10.4%であるが、最近6年間で福岡市が6.9%から24.8%へ、大分県が7.4%から22.7%へと増加させている。このように取り組みの姿勢によって大きな格差が出ているわけで各自治体の努力を期待したい。

- 3) 第三章で紹介した、アンケートによるイギリスの子供の意見表明「こどもの声」のように、児童相談所・養育する側からだけではなく、子どもたちが、里親制度・施設養護等に対して、自分の言葉で、率直に意見表明が出来る環境づくりをしていくことが必要である。そして、アンケート・聞き取り等も普通に、必要な時に出来るようになれば、子供たちにとっても充実したより安心、安全な社会的養護を受けることが出来るようになるだろう。私達里親も、子供たちのために支援できるように関わっていかねばならないと思う。